

三成小だより

令和7年度1月号

令和8年1月8日
富山市立三成小学校

校長 若 狹 茂

年が明けて1週間以上が経過し、「2026年」「令和8年」と見聞きするのにも、少し慣れてきました。では、脳トレです……

第1問 昨年の「今年の漢字」は？ 第2問 昨年の「流行語大賞」は？

第3問 昨年の「レコード大賞」は？ 第4問 昨年の「紅白歌合戦」の大トリは？

正解は、「熊」「働いて働いて働いて働いてまいります」「Mrs. GREEN APPLE」「松田聖子」。第1問「熊」や第2問の年間大賞「働いて×5」は分かりますが、他の流行語など、どこで流行っていたの？ というような言葉や歌（楽曲）が、年々増えていきます（苦笑）



明けましておめでとうございます！



この大晦日から元日も、「鳥居」や「門」をくぐったような、心が清められる感覚、その一方で自然災害が発生するかもという一抹の不安は、これまでと同様でした。

しかし、「いよいよ、2026年」という感情の高揚は抑えられません。「水橋学園」開校まで「3か月」。いよいよです！

振り返れば6年前の夏、新型コロナで世の中が張り詰めた空気に包まれる中、「教育の質向上『歓迎』／水橋 小中7校統合／学びや消失 憎しみ声」（K新聞、R2.8.3）と題した大きな記事が、7校のカラー写真付きで報じられました。

その兆しは前年からあり、富山市「広報とやま」（R元.8.5）では、児童生徒数の減少や学校の小規模化が課題として挙げられ、「将来的に学校の統廃合は避けて通れない」と記されていました。水橋地域では、年間の出生数が100人を下回り、児童数が10人未満の学年や2学年による複式学級、中学校では部活動、特に団体競技の継続が困難になるなど、数字や現象として現れる状況は厳しく、危機感を抱かずにはいられませんでした。

学校統合5か年計画（R3～R7）が進む中、令和4年4月には三郷小学校と上条小学校が先行統合（1次統合）し、「三成小学校」が開校しました。また、同年3月に閉校となった「水橋高校」跡地を活用した「義務教育学校」建設で県と市が合意し、統合計画はより加速していました。

一方で、通学距離の拡大やスクールバスでの通学、規模が大きくなることで子供たちの活躍の場が減るのではないかという不安、そして長い歴史をもつ学校が姿を消すことへの寂しさも、決して小さなものではありませんでした。「水橋学園」は、そうした思いに向き合いながら、3か月後の開校を目指して準備が進められています。地域の、学校統合への選択が、後に「令和の大英断」と語られること、そして何より新天地で学ぶ子供たちの心身の健やかな成長を、校長としても水橋地域住民の一人としても、心から願って、願って、願って、願って、願って、願って、願って（1回多くしました）います！

未来へつなぐ「水橋学園」、まもなく開校！

